

苫小牧工業高等専門学校企画広報委員会

苫小牧 高専通信

Vol.
112

平成18年6月1日発行

〒059-1275 苫小牧市字錦岡443

苫小牧工業高等専門学校 庶務課広報担当

TEL 0144(67)1040

ホームページ <http://www.tomakomai-ct.ac.jp>

メールアドレス pub_info@office.tomakomai-ct.ac.jp

TOMAKOMAI National College of Technology



希望に満ちて！平成18年度入学式
新入生の皆さんへメッセージ
必見！
学生寮紹介
派遣報告
ニュージージーランド

入学式挙行される

ようこそ苦小牧高専へ！

新入生への言葉

校長 伊藤 精彦

新入生の皆さん入学おめでとう。希望に満ちて本校での学生生活をはじめた皆さんに、教職員ならびに在校生を代表して心からお祝い申し上げます。春の訪れの遅い苦小牧では4月はまだ雪が舞う日があります。今、皆さんは期待と同時に不安の気持ちを抱えているかもしれません。しかし、5月、6月となるにしたがい桜が咲き、鶯が鳴く、爽やかな季節が訪れます。その頃には皆さんも学校生活に慣れていくと思えます。

ここで、皆さんの学校生活での最も基本となる学習について述べたいと思います。まず、自学自習を常に心がけてください。そのために、本校では皆さんの自主的かつ計画的



な学習を助けるため、全授業科目についてのシラバス（授業計画書）を用意しています。このシラバスをよく読んで、これから履修する科目について、どんな目的でどんな内容のことを勉強するのかを予め把握し、日常の予習や復習に活用することはもちろん、できれば数年間にわたる長期的な計画を大まかでもよいから立てて下さい。特に皆さんは、入学した時から所属する学科がきまっています。低学年で多く学ぶ一般科目は、一見したところ将来勉強する専門科目とは関係がないように見えますが、実はその基礎となる大切な科目でもあります。自分が入学した学科で将来どのような勉強をするようになるのかを、シラバスではつきり理解して下さい。授業についても、これまでの中学校とは大きく異なる点があります。例えば、第1学年であっても、6時限または7時限までの講義や実験あるいは実習が時間割に組込まれています。土曜と日曜とをいかに有効に活用するかが、これから勉学を進める上でのポイントになります。

勉学のほか皆さんに望みたいことは、課外活動にも十分力を注いでほしいということです。体育系、文化系どちらのクラブでも、自らの適性によって選択し、積極的に活動して、自己を磨くとともに協調性を養い、なるべく多くの友人を作ってください。勉強以外でも大いに光り輝いて下さい。

自学自習を真面目に継続して行っていれば、5年後の卒業を迎える時、皆さんの進路は大きく開かれています。皆さんの先輩の努力により、高専の卒業生は創造力や実践力に富んでいると産業界で高く評価されており、就職について心配することはありません。

また、卒業後さらに勉強を続けたいと思う人達のために、本校には専攻科（修業年限2年）が設置されており、修了すると工学士の学位が授与されると同時に、技術士の第一次試験の資格と同等の資格つまり技術士補の資格が与えられることとなります。また、ほとんどの大学の理工学部で、3年次への編入学制度を設けています。

これからの5年間は長いように思われるかもしれませんが、実際にはとても早く過ぎてしまいます。入学直後のいまから5年後の進路を考えて目標を設定し、毎日の勉強を着実に積み重ねて、苦小牧高専の学生としての自覚と誇りとを忘れることなく、有意義な学生生活を過ごされることを願っております。

新一年生を迎えて 一学年担任からのメッセージ

学級担任挨拶

電気電子工学科1年担任
(文系総合学科) 吉岡 亮



4月10日の入学式から、1週間が経ちました。私は、本校に赴任しまして、まだ2年目。担任を担当することも初めてで、この1週間は新1年生と同じくらい、あるいは、それ以上に緊張と戸惑いの連続でした。ただ、私自身はいまだ緊張の解けないままですが、教室の中では、少しずつ友人の輪も広がりつつあるようです。

まずは、きちんと毎日登校すること。クラスメイトをはじめ、他学科の学生や先輩、先生と様々なつながりを作っていくこと。そして、勉強はもちろん、行事や課外活動にも手を抜かないこと。この三点に気をつければ、高専での5年間は間違いなく充実したものになるはず。頑張りましょう。

新入生を迎えて

環境都市工学科1年担任
(理系総合学科) 岡本 幸雄

入学式から1週間過ぎたばかりですから、学生は新しい勉強に戸惑ったり、クラブ・同好会を見て回ったり、未だ慌ただしい日々を送っているようです。明るいクラスのようなので、早いうちに気の合う友人もできると思っています。学生が本校での勉強・生活に早く慣れるように、できるだけ教室に顔をだして対話したいと思っています。



物質工学科1年担任
(理系総合学科) 藤島 勝弘

私は北大工学部に16年半勤務した後、本校に赴任して13年目になります。担任は6回目です。学生の若さに負けないように務めていきます。専門は物理（物性物理理論）です。授業では物理の面白さ、奥深さを伝えたいと思っています。



先輩からのメッセージ 新入生のみみなさん入学おめでとう！

「充実した高専生活を！」



情報工学科 4年
味舌 翔平

新1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

もう学校生活には慣れましたか？この苫小牧高専には1年生から5年生まで、たくさんの学生が通っています。始めのうちは19、20歳の先輩が学校の中にもいたり、学校の敷地の広さなどに、とまどったり、驚いたりすると思いますが1ヶ月もあればすぐに慣れますが、部活や同好会に入ればさらに楽しくなるでしょう。

この高専にはロボテクだけではなく、サッカー、野球、テニス、バスケット、バドミントンなどたくさんさんの部活、同好会があるので、必ず自分にあつた部活が見つかると思います。

ところで、皆さんも知っていると思いますが、高専での勉強はとても大変です。でも、普段から予習、復習を心がけていけば絶対に大丈夫です。また、わからないことがあれば教員室に行けば先生がいろいろと教えてくれます。

では、新1年生の皆さんこれから5年間、勉強や部活に充実した高専生活を送ってください。

「将来を考えた目標を見つけよう！」



環境都市工学科 3年
松島 梓

入学おめでとうございます。

高専にきた志望理由は様々だと思いますが、友達と楽しく学校生活を送れるように頑張ってください。高専での5年間を楽しく過ごせるかは自分次第だと思います。5年という長い時間を最大限に利用して下さい。友達や先輩と仲良くしたり、積極的に学校行事や部活動に参加したり、時間を有意義に過ごして欲しいです。勉強はメリハリをつける事が大切とある先生が仰ってました。学年が進むと専門の授業が増え、今の学校でしか学べないことをたくさん勉強できます。大変かもしれませんが遊びとのバランスをとりながら知識を付けて、自分のプラスにして下さい。

勉強だけでなく楽しい思い出をたくさん作っていくことが一番です。そして卒業を目指すのではなく、その先の将来を考え目標を見つけてくれるような毎日を過ごすといいと思います。高専に来てよかったと思えるように、一緒に頑張ってください。

「人生のフロチャート」



機械工学科 5年
能登 勝

これは僕が尊敬している先生の言葉です。皆さんは16歳から20歳までの、人生で最も重要な、最も楽しい時間を高専で過ごすことになり、この5年間を充実した時間にするために一つだけ心に留めておいて欲しいことがあります。それは、何か一つ自分の5年間を懸けるに値することを身につけるということです。

高専生だからといって、何も年中勉強をしたり、ロボットを制御したりしている必要はありません。部活やバイト、愛に生きている人もいます。萌えに生きている人たちも楽しそうです。人生において何に重きを置いて生活するかは個人の自由ですから、自分のやりたい事をやってみて下さい。そして重要なのは、テストで周りに文句を言わせないだけの成績を残すことです。

高専に入学した以上、多少の勉強は避けて通れません。しかし勉強と趣味の両立は絶対に難しいことではなく、全て自分次第です。人生のフロチャート(予定みたいなもの)を描くことが重要です。

ました。物質工学科1年の担任は2回目です。担任として、中学校を卒業したばかりで子供っぽい学生が高専生活を通じて、少しずつ大人に成長していく様子を楽しんでいます。私が「担任」という仕事を楽しめば、学生も「学校」というものを楽しんでくれると信じています。担任となると生活指導のことや学力不振者への指導のことなどで頭が一杯になり、とても楽しい気分になれないものです。それでも、毎日の会話や行事などを通じて、楽しい面をたくさん見つけたいと思います。担任が嫌々でクラスに顔を出せば、皆も嫌な気分にならせてしまいます。だからといって作り笑顔も不自然です。とにかく今年は「担任って楽しいな」と感じる年にしたいと思います。

「叶えたい大きな夢」と

「毎日できる小さな目標」

情報工学科1年担任
(理系総合学科) 中島 広基



入学式を終え早くも1週間がたちました。我がクラスの仲間たちは日々押し寄せるプレッシャーの中、疲れた顔をしながらも少しずつ自分のカラーも見せ始め、徐々に仲間作りも進んでいるようです。入学式の際には教務規定の話がほとんどになってしまい、心配な気持ちになられた保護者の方も多かったのではと申し訳なく思っ

ています。

担任として、ご家族をはじめ幼稚園、小中学校など、彼らに関わってこられた全ての方々の愛情と努力に感謝するとともに、それらを無駄にすることなく、彼らに与った高専生活が最高の時間になりますよう一杯支援してまいります。

ご家庭におかれましても、彼らの日々の成長を余すところなくご覧いただき、小さな成長を子供とともに喜ぶ毎日をお過ごし頂ければ幸いです。

新入生を迎えて

機械工学科1年担任
(理系総合学科) 小鹿 正夫



ご入学おめでとうございます。機械工学科1年担任の小鹿正夫です。数学を担当しています。ソフトテニス部の顧問をしています。この時期は新入生諸君の意欲と若いエネルギーを感じとても楽しい時期です。新入生諸君にとっては、中学校までのゆとり教育から、高専の実践教育に変わる時期でもあります。この大きな変化に若いエネルギーで立ち向かい、生徒から学生へ大きく成長していく姿を見ていつも感動します。担任として、数学担当として、クラブ顧問として新入生諸君をサポートして行きます。保護者の方々には家庭での指導よろしくお願ひいたします。新入生諸君、頑張りましょう。

CLUB&CIRCLE INFORMATION

クラブ&同好会紹介

苦小牧高専硬式野球部

主将 環境都市工学科5年
水谷 竜太



苦高専硬式野球部は1つの部ではありますが、学年によって参加する公式試合は異なります。1～3年生までは高等学校野球連盟の大会に参加し、4・5年生は国立高専体育大会野球競技に参加して活動しています。練習試合においても、近隣の高校・大学、他高専と年間数十試合行われており、日々の練習で鍛え上げた成果を実戦で確認しています。苦高専が所属する高野連室蘭支部には甲子園優勝校をはじめ、甲子園出場経験校が数多くあり、野球のレベルは年々上昇し、その高いレベルの野球環境の中でプレーできます。また春・夏季休暇中には、合宿練習の期間が設定されていて、学内に設置されている合宿施設を利用しながら精力的に練習を行っています。苦高専は、高校野球全道大会出場や全国高専大会出場の実績もあり、年間を通して硬式野球部は野球をする充実した環境のもとで、日々積極的に活動しています。苦小牧高専硬式野球部の主な実績は下記の通りです。詳細はホームページを御覧下さい。

- 第80回全国高等学校野球選手権大会 北海道大会出場 (平成10年)
- 第36回春季北海道高等学校野球大会 全道大会出場 (平成12年)
- 第36回北海道地区国立高専体育大会 野球競技優勝
- 全国大会出場 (平成12年)
- 第41回北海道地区国立高専体育大会 野球競技優勝
- 全国大会出場 (平成17年)



<http://www.tomakomai-ct.ac.jp/department/gene/ono/baseball/index.html>



少林寺拳法部

部長 物質工学科3年
佐々木奈々子



私たち少林寺拳法部は、毎週日曜日と金曜日の3時40分から6時30分まで、体育館裏の武道場で活動しています。練習内容は主に、八島先生(7段!)のご指導のもとで昇級試験や昇段試験に向けての練習や、高校大会、新人大会、胆振地区大会などに向けての演武の練習をしています。他にも、部員みんなで基本練習や乱取り、ミット蹴りの練習もしています。

少林寺拳法部は男子部員9人、女子部員4人で、先輩後輩の仲もよく、みんなで楽しみながら練習しています。高専祭ではお好み焼きの屋台の出店もして、お客さんからも好評でした。女の子でも簡単に始められ、護身術としても役に立ちます。部員を募集しているので、少林寺拳法を知らない人も、少しでも興味があれば、ぜひ見学に来てください。



学生寮紹介

蒼冥寮という場所

寮長 電気電子工学科5年
松坂 友太郎



新入生の皆さん入学おめでとうございます。蒼冥寮には新しく新一年生や留學生が入り、15歳から20歳くらいまでの幅広い年代の300人以上の人々が日々生活しています。蒼冥寮という場所は、下級生は上級生に指導されながら礼儀などを学び、上級生は下級生を指導しながら指導というものを学ぶ場所だと僕は思います。

まず、最初に蒼冥寮で行われる主な行事を紹介したいと思います。一つ目は新入寮生歓迎会というものがあり、この会のメインは一年生の大きな声でやる自己紹介です。これは一年生が寮生活を上手くやっていく上で必ず乗り越えなければならぬ一番最初にぶち当たる壁です。二つ目



は親睦スポーツ大会という各種各階對抗で、食料をかけて球技をし、先輩と後輩が力を合わせて親睦を深める大会です。三つ目は、寮祭です。寮祭は名前の通り寮の祭り、抽選会やビンゴ、スポーツなどをして寮生みんなで楽しみます。四つ目は、予選会という行事です。これは卒業する五年生を送り出す会です。一年で最後の行事です。まだまだ行事はありますが次にいききたいと思いま

次は、寮の自慢スポットを紹介したいと思います。一つ目は、大浴場です。大浴場は、最高で20人くらい一度に入れることができます。二つ目は、図書室です。図書室には、新しい流行の本がたくさんあり、すぐに読みたい本が借りられます。三つ目は、中庭です。中庭は、昼は布団を干したり、夜は野球部やテニス部が素振りをしたりするという庭です。寮にはまだまだ自慢出来る場所があるとありますが、今回はこのへんでやめておきたいと思えます。

最後に僕がこの4年間の寮生活で得たものを紹介したいと思います。一つ目は、自分の身の回りのことは自分で考えて行動するようになったことです。二つ目は、長い間一つ屋根の下で暮らしてきた仲間を得ることが出来ました。三つ目は、長い伝統のある蒼冥寮で生活してきたことは簡単なことではないので、それを乗り越えてきたという自信や誇りが出来ることです。



楓和寮紹介

寮長 物質工学科5年
山本 裕子

今日は、楓和寮長の物質工学科5年山本裕子です。楓和寮は平成14年に開寮し、現在留學生を含む1年生から5年生が60名暮らしています。一人部屋で、出来て間もない楓和寮はともきれいな建物です。最初のころは様々な問題がありました。現在は、現在の楓和寮は先代の先輩達のおかげで初めのころより確実に住みやすくなりました。新入寮生会、スポーツ大会、寮祭、予選会などの行事があり、寮生全員が学年隔てなく交流を深めています。休日には、補食コーナーで、女子寮ならではのお菓子作りの場面に頻繁に出くわします。

もちろん勉学を疎かにせず、日課の自習時間ではきちんと自習をしています。学習強化週間には指導寮生が各居室を見回り、相談に乗ったりもしています。寮生総会やフロア会議ではみんなの普段の生活に対する意見や要望のやりとりをし、寮生全員での寮作りを目指しています。ひな祭りには小さいけれどお雛様を、母の日には寮母さんにカーネーションを送り、クリスマスにはクリスマスツリーを飾ったりと季節の行事も大事にしています。5月には寮の外にきれいな桜が咲いているので、個人的に花見をしている人も結構います。最近では、「エコ楓和」を目指して、牛乳パック回収や、缶のプル

タブ回収を始めて、みんなの協力を得て成果をあげました。寮内ではよく、多目的ホール等で先輩と後輩が仲良く話しているのを見ます。廊下などですれ違ったりする時に元気に挨拶するのが当たり前である雰囲気を感じます。明るく、メリハリのある寮はとても過ごしやすいと思います。

共同生活なのでこの寮には個性豊かなメンバーが住んでいて、それが楽しくもあり、やはり合わないと感じ、意見がぶつかったりもします。しかし、寮は集団生活の場であるので、一人一人が協調性を身につけて、人のことを思いやれる、そのまま社に出ても大丈夫な人であるように私たちは指導を行っています。

最後に、寮生活は自分の思い通りにならないと不満があったりもしますがそれ以上に得るものがたくさんあります。寮を出る時には、寮に入った時より少しでも成長して欲しいと私たちは考えます。



TOMAKOMAI National College of Technology

研究室訪問

「凍結路歩行における 防滑に関する研究」



材料力学実験室
機械工学科 野口 勉

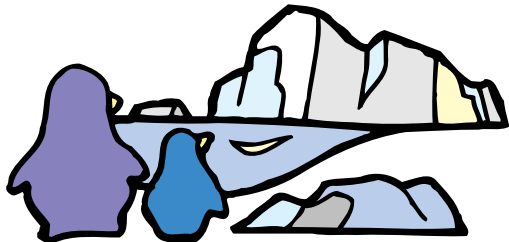
今から14年程前の冬に北海道内の7大都市の病院整形外科を訪問して医師の話や聞き取りの機会があり、その中で歩行者の転倒事故による骨折、捻挫の治療に忙殺されていた整形外科医から滑り転倒対策を持ち掛けられたことから、現在に続く「凍結路歩行における防滑に関する研究」が始まりました。当時、学生に身近なテーマを探していたので面白いとは思いましたが、関係資料も測定装置もなく、長期休業中には学生と共に札幌に通い北海道立の施設で歩行のデータ取りをしたり、すすきのの横断歩道で歩行



者の動態をビデオ撮影したり、恐ろしい思いもするなど大変な時期もありました。しかし、今ではそれも学生との良き思い出となつていきます。

現在は「防滑歩行法の提案」、「防滑材の最適配置のための多機能床反力計の開発」とおよび「人と環境に優しい防滑材の開発とその評価方法の提案」の3つのサブテーマに分けて、さらにそれぞれを細分化して学生中心に研究開発活動を行っています。社会的なニーズや反響を身近に感じられる内容であり、そのことを通じて技術者の感性を養ってもらいたいと考えています。

なお、今年度から株式会社東芝より浅野政之先生を迎え、材料力学実験室の新たな展開に期待していると



学生教育と地域貢献を第一に 考えた「食品・医療・福祉」の 研究について

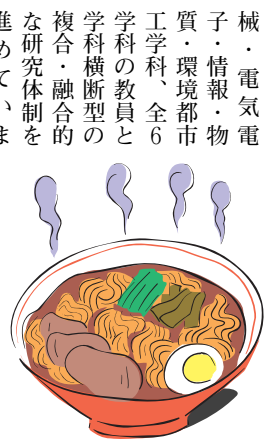


KOJIMA Lab.
理系総合学科 小島洋一郎

当研究室は、平成17年度に新設された専攻科棟の4階に位置し、居室からは四季折々の苫小牧市街や樽前山を眺めることができます。平成18年度における研究室の構成は、教員1名、専攻科生2名と卒業研究生5名の計8名です。学生の所属している学科は電気電子・物質・環境都市工学科と多岐にわたり、本研究室のテーマに賛同いただける文系総合学科・理系総合学科・機



車椅子の乗り心地評価機器による実験



械・電気電子・情報・物質・環境都市工学科、全6学科の教員と学科横断型の複合・融合的な研究体制を進めています。

す。そのため、学生の多くは他の専攻や学科の学生と研究を通じて交流を深めています。さらに、プレゼンテーション等に関する研究は、他の学科の教員から指導を受けることが出来るよう配慮し、学生の教育を第一とした研究になるよう心掛けています。

小島研究室では、生きて行く上で必要不可欠な「食品・医療・福祉」を研究の3本柱として掲げています。以下に主な研究テーマについて紹介します。食品については、ヒトの感じる味覚を再現するセンサシステムの開発に取り組んでおり、お茶やジュース、さらにはラーメンスープをさまざまなセンサから得られるデータを活用して識別を行っています。福祉については、車椅子の乗り心地を評価する機器の開発を進めており、アンケート調査や車椅子の振動等により検討を行っています。これらの研究は、未だprimitiveな段階ではあるが、今後多くの学生や企



超音波味覚センサー

業の方と共同で研究を進めることで、発展が大きい期待できる分野です。

新任教職員挨拶

NEW FACE
今年度新たに着任された先生や職員に、ご挨拶をいただきました。

着任のご挨拶



機械工学科 助教 浅野 政之

機械工学科に赴任しました浅野です、よろしくお願ひします。私は北海道大学大学院工学研究科博士後期課程を修了し、(株)東芝に25年勤務しました。主に原子力機器の構造設計、健全性維持の研究に携わり、亀裂が発生してからの寿命、究極強度の研究が専門です。

原子力は重要なエネルギー源で、企業の研究者としてなすべきことはたくさんありますが、マニュアル人間の増加などに危惧を感じていました。そこで25年勤務の節目にあたり、教育研究に尽力したいと考えていたところ、幸いにも本校に職を得ることができました。苦小牧は初めてですが、豪雪地帯高田生まれの北国育ちで、ハンディと素晴らしさがわかりますので、共に頑張っていきたいと考えています。

新任にあたっての抱負



機械工学科 助手 丹野 格

札幌圏の私立高校、短期大学などで勤務した後、4月より本校で勤務することになりました。札幌生まれ、札幌育ちの道産子ですが、道内では今まで札幌以外に住んだことがありませんでした。苦小牧は、3月末にはすっかり雪も解けて道路状況がとてよいことにまず驚きました。また、学生の皆さんが学内ですれ違った際にはきちんと挨拶をするよい伝統があることに感心しました。私の担当科目は英語で、2、3、4年生の授業を担当します。授業以外にも学生の皆さんとは様々な場面で顔を合わすことと思います。まだまだ新しいことや知らないことばかりですので、これから一つ一つ学んでいきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。

釧路高専から苦小牧高専へ

この度、今年度から高専機構が行った4月から物質工学科に赴任しました檜村奈生です。私は苦高専の卒業生で、卒業した後は大学に進学し、3年間産業技術総合研究所で務め、職員として苦高専に帰ってきました。大学・研究所では石炭を研究してきました。石炭は一昔前に使われ、現在では使われないと思われがちですが、電力の約14%は石炭の燃焼で賄っています。石炭を燃やすとCO₂を排出しますが、CO₂は地球温暖化の原因の一つで、排出量が規制されつつあります。では、石炭を使わなければならないのかという不可能で、CO₂排出量の少ないプロセスの構築という技術が重要になります。このように技術が社会と密接に関係しているということを伝えられたらと考えています。よろしくお願ひいたします。

着任のご挨拶



物質工学科 助教 檜村 奈生

4月1日付けで、着任しました築田です。3月までは札幌で暮らしておりましたが、苦小牧高専から少人数で多くのことを学びたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

着任のご挨拶



情報工学科 助教 志村 隆行

4月1日付けで庶務課人事係長に着任しました志村と申します。私は、平成10年10月に北海道教育大学教育学部函館校に採用され、平成15年4月に北海道教育大学教育学部旭川校に配置換えとなり、その間、庶務・人事関係の業務に携わって

まいりましたが、初めての係長という職責に身が引き締まる思いをしております。庶務課は、教職員に対する仕事が大半ですので、学生のみならず接する機会はありませんが、廊下ですれ違う際の挨拶などに元気を分けてもらっております。また、苦小牧の生活にも慣れてはおりませんが、1日も早く生活に、職場に慣れ、自分の持てる力を最大限発揮し努力する所存ですので、どうぞよろしくお願ひいたします。

New

ニュージーランド訪問記



オークランドの街並み

Zealand



オークランド市内



AUTの外観



EITの敷地内



図書館の自習室



図書館(外から見た様子)

ニュージーランドへの 学生・教員の派遣報告

昨年の10月3日から6泊7日の日程で、文系総合学科の松田奏保助教と公募で選考された学生2名(環境システム工学専攻1年 西 洋美さん、桑島知香さん)をニュージーランドに派遣しました。本校では学生諸君の国際性やコミュニケーション能力を向上させるため、外国の高等教育機関と国際交流の機会を検討しており、今回の派遣の目的は、ニュージーランドの高等教育機関を視察し、現地の学生との交流もしながら、相手機関への本校の説明と交流に

向けた話し合いをすることでした。訪問したのは、ネイピア市にあるEITホークスベイ(Eastern Institute of Technology, Hawke's Bay)とオークランド市にあるオークランド工科大学(Auckland University of Technology)。今回は、「苦小牧市・ネイピア市姉妹都市締結25周年記念市民訪問団」に同行して、各種の市民交流行事にも参加できました。EITホークスベイとは間もなく交流協定を締結する事が決まっております。今年度から本格的に学生数名の短期派遣を開始する予定です。派遣学生は後日公募しますので、皆さんふるって応募してください。

ニュージーランド訪問記を寄稿して頂きました。

ニュージーランドレポート

環境システム工学専攻1年 西 洋美

平成17年の10月3日から9日までニュージーランドに行ってきました。ニュージーランドにはあるEIT(Eastern Institute of Technology)とAUT(Auckland University of Technology)に訪問してきました。ニュージーランドまでは飛行機で約11時間かかりました。

1) ニュージーランドの気候

ニュージーランドの季節は日本と逆です。10月はニュージーランドでは春で街では桜が咲きそうでした。ニュージーランドは晴れていたと思つたらすぐに雨が降り出し、1時間後にはまた晴れる、というように天気が変わりやすいところでした。また天気予報があたらないうちというところで有名などころで、この国に住む人たちは出かけるときは晴れていても必ず折りたたみ傘を持ち歩いているそうです。

2) EITの訪問

EITはニュージーランドの北東にあるネイピア市にあります。この

学校には色々な学科があり例えば看護学、美容の学科、マッサージやソリリズムや接客の学科、ワイン科学、マオリについて学ぶ学科などがありました。高専と似たような学科で言えば、機械工学や電気工学を学ぶ学科や建築関係の学科がありました。この学校はHAWKE'S BAYという地区にあり、ここは自然が多くのかな雰囲気のある場所です。EITは敷地が広く、建物は明るい雰囲気の色使いでも個性的です。学校の敷地内の歩道もデザインされたようにきれいに整備されています。また、この学校にはワイン科学という学科があり、敷地内にブ

ドウ畑があり栽培していました。

この学校に日本からの留学生がいて日本人留学生のうちの3人の方と話をすることができました。3人とも年齢がバラバラでした。この3人はこの学校に入学して、初めは英語コースで英語を学び現在はそれぞれの専門の学科で学んでいます。英語コースから専門のコースに進むためにはIELTS(アイエルツ)のテストで決められた点数以上ととる学びたい専門の学科に進むことができるそうです。日本人留学生の一人は、看護士として青年海外協力隊で海外に行き働いていて、英語の必要性を感じて看護士の仕事をやめEITに入学したそうです。もう一人は会社をやめてEITに入学し、ツリーズを学ぶ今年の12月に卒業するそうです。またオークランドにある旅行会社に就職が決まり、卒業後もニュージーランドに住むそうです。

3) A U T の訪問

この学校はオークランドの町の中心街にあります。オークランドはニュージーランドの中でも大きな街のひとつです。オークランドはCity Of Sails(帆の街)と呼ばれていて海に近い場所にあります。またヨット競技が盛んなところで人口あたりの船舶・ボート数は世界一であり、市内のヨットハーバーには、たくさんさんのヨットが停泊していました。



オークランド市のハーバーブリッジ

A U T では会計、ビジネス、コミュニケーション、工学、アート・デザインなど他にもたくさん学科がありました。工学のクラスでは機械工学や電気工学、情報工学のクラスがありました。また、学校内にある図書館はとても広く、3階から4階ありました。この日は学生の休みの期間でしたが、図書館にはたくさん学生がいました。この学校もいろいろな国からの留学生が通っていて中国や韓国からの留学生が多いそうです。工学部の実験室に入る前には、専攻科棟以上にセキュリティが厳しく管理されていました。

4) ホームパーティー・感想

EITで案内していただいたロビン先生のホームパーティーに誘われて、一緒に夕食を食べました。英語で話すときはゆっくりとわかりやすく話してくれました。初めて会ったのに気軽にホームパーティーに誘っていただいていたのもいい人ばかりでした。言っていることはわかるのに自分の話したいことがいざという時に言葉に出てこないことが多く、自分

の英語力のなさを実感しました。もし今度会うことがあったらもっとたくさん話せるようになっていきたいです。

ニュージーランドでの研修を終えて

環境システム専攻1年
桑島 知香

今回、初めての海外ということで夏休み前から楽しみにしていました。

ニュージーランドは、とてものかなどところで、北海道にとっても似た風景でした。気候は驚くほど気まぐれで、一日の内に晴れたり雨が降ったり目まぐるしく天気が変わっていても面白かったです。

さて、今回の旅の目的の一つであるEITは色使いがカラフルでレゴブロックの様な建物でした。科ごとに建物が建っているようでいくつもの建物がありました。医療科、図書館、ワイナリーとその研究棟を見て回った後、シェフになる勉強をしている生徒達の作ったご飯を食べまし



EITのロビンさん夫妻と(姉妹都市締結25周年記念祝賀会)

た。とても美味しかったです。

食事の後に回ったのは、大工棟、機械棟、電気棟。機械棟では、生徒達によって安く車を修理してもらうことができるそうです。この他にも、美容科でも、安くマッサージュや髪を切ってもらうこともできるような実践的な授業はかりのようでした。

見学が終わると松田先生と別れて、EITに留学している日本人三人と話すことができました。三人ともホームステイをしているとのこと。授業は午前中が、比較的英文法などの勉強、午後は遊びを交えながら英語を覚えていく授業。宿題は自主的にやっていたら見えてくれると言っていました。見学するときに案内してくれたロビン先生は聞き取りやすい英語で話してくれて、英語の勉強をしやすいところだと思いました。IELTSという、TOEICの様な試験を受けて点数が取れば、英語科だけではなく、美容科やツアーズなどの本科の授業を受けることができるとのこと。EITからネイピア市の市街地までは



マオリ族の皆さんによる舞踊

やや遠いため自分で運転するかバスを利用するかしなければ行きづらい(その上、バスは5時までしか通ってないそうです)ので、勉強するには最適な場所と言っていました。

一方、もう一つの目的であるA U Tは、市街地にあり、学校というよりは専門学校や企業のビルのような建物でした。

見学したのは、機械、情報、電気科のある建物とデザイン科のある建物、図書館を見て回りました。図書館は、とてもデザイン性のある建物で本も沢山置いてありました。機械棟は、高専の実験室とは全く違う実験室というよりは資料室のような雰囲気でした。

オークランドは、大きな都市で歩くだけでとても楽しい街でした。至るところに日本語があり、また日本人向けのお店もありました。中国人と韓国人が大勢おり、外国人にとって住みやすい街だと思えました。車線も日本と同じ左車線、日本車が多く輸入されており、国際免許証さえあればすぐにも運転できると思います。

ニュージーランドでは、全くの他人同士でも挨拶し合い、とても聞きやすい英語で話してくれる人ばかりだったので、とても良い印象を受けました。

また機会があれば是非何度でも行きたくなるような国でした。

Welcome to Tomakomai



留学生紹介

苫小牧高等専門学校にきて



JUAN FERNANDO ARISTIZABAL



電気電子工学科3年
ホアン・フェルナンド・アリスティサバル
(出身国/コロンビア)

初めて北海道で3年間勉強することが決まったときは、不安と期待でいっぱいでした。4月3日にあたたくなり始めた東京を出発し、苫小牧のこのキャンパス寮に着いた時はその気候の差に驚きました。コロンビアという温暖な国の出身である僕は、雪を見たこともなかったこの冬の寒さはもちろん慣れない寒さでした。最初に自転車を買ったときは、正直どうやって雪の上を運転するのだろうかとも不安でした。しかし、僕はこの大自然に囲まれたのどかな雰囲気と人々の暖かさが大好きで、本当にこの土地に来ることができてよかったです。また、ここにきての僕の抱負

最後に、僕たち留学生を暖かい目で支援してください。日本でも学べるチャンスを無駄にしたいと思いません。

「皆さん、よろしくお願ひします。」



REZA ARYADITYA SETYAGRAHA



情報工学科3年
レザ・アリアディティヤ・セティヤグラハ
(出身国/インドネシア)

フェリーが苫小牧港に到着すると、私はたちまち不安になりました。よく一緒に東京のあちこちへと遊びに行った友達と別れ、いつも支えてくれた東京の先輩達とも離れ、一体これからの新しい生活がどうなるのかと悩みました。しかし、フェリーを降りると、先輩と担任の先生が迎えに来てくれて、すぐにその不安がだんだんとなくなっていきました。私は苫小牧で一人ではありません。それ以来、次々と先輩、先生、新しい友達と出会いました。想像以上にみんなは優しい人ばかりで、いつも私のことを助けてくれて、私も私に親切にしてくれました。私にとって本当にありがたいことだと思ひます。



苫小牧に来てから、もう3週間ぐらひ経ちました。授業は先週から始まりました。新しい友達ができ、生活、授業にもだんだんと慣れてきました。大変なことはもちろんありますが、いろいろな大変なことでも、頑張ればできるでしょう。日本語学校の勉強に比べて、これからの勉強はますます難しいと思ひます。ですが、これからは私は一生懸命頑張りたいと思ひます。皆さん、よろしくお願ひします。

「日本の文化も学びたい」



SYAMIM ANAS BIN YUSOF



機械工学科3年
シヤミム・アナス・ビン・ユソフ
(出身国/マレーシア)

私は4月4日苫小牧高専に着いた。その言葉で言い表せないほどうれしかった。日本にいるのは夢に思わなかった。でも両親と離れてしまったと寂しく感じたが、私がここに来るのは両親の希望だからあまり悲しくない。4月11日に入学式があった。いろいろな種類の学生を見ました。一人一人が嬉しそう顔をしていて、その時は今日日本人の社会にいると思ひた。

私は今一番頑張りたいことは日本人とのコミュニケーションのことだ。私はコミュニケーションが弱くて、日本語でしゃべるのはちょっと自信がないから。私は間違いを恐るの怖すぎるのでいつも小さい声で話している。だから、今日日本人の友達とちゃんと話



最後に、日本にいる以上日本の文化も学びたいと思ひます。マレーシアでの日本の学校では日本人の先生に日本についているいるのを教えてもらったが、それではまだ足りないと思ひます。だから、みんなに教えてもらいたいと思ひます。

福利厚生施設の紹介

全国の高専の中でも指折りの広大な敷地面積をもつ本校には、さまざまな福利厚生施設があります。その代表的なものを紹介いたします。

鵬翔会館



鵬翔会館全景

鵬翔（ほうしょう）会館は、学生及び教職員の福利厚生と、学生の課外活動を目的とした施設です。1階に保健室・学生相談室、食堂、売店、ATM（キャッシュサービスコーナー）、2階には和室、談話室、サークル共用室があり、学生・教職員の憩いの場として利用されています。



保健室・学生相談室

月曜日から金曜日まで3名の専門のカウンセラーと本校学生相談員や看護師が学生の悩みや健康相談に応じています。



食堂

特別・日替定食、そば、うどん、ラーメン、カレーライス、ハヤシライス、オムライス、肉まん・あんまん（冬限定）など豊富なメニューから選べます。



売店

文房具、清涼飲料水、アイス、食品、日用品、雑貨、切手・はがき、トマップカード（市営バス回数券）などが販売されています。

合宿所



合宿所全景

合宿所は、全部で5室あり、各部屋の定員は、10～20名となっています。そのほかに、台所やシャワー室、トイレなどが完備されています。

春季・夏季・冬季休業中や5月の連休中には、多くの体育系・文化系のクラブや同好会が合宿を行っています。

ロボコン製作室



ロボコン製作風景

毎年、全国規模で開催される高専ロボコンには、本校も2チームがエントリーします。

まずは、北海道地区大会での優勝を目指し、ロボットテクノロジー部が中心となって日夜製作に励んでいます。

このほかに、音楽系サークル施設、全天候型アイスホッケー場、アーチェリー場、武道場、テニスコートなどがあります。

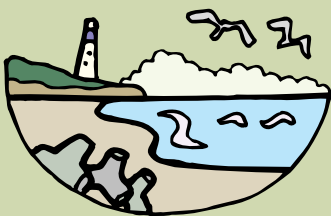
環境教育への取組

校長 伊藤精彦

今年の高専通信新年号（第一号）で文部科学省の平成17年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G.P）」に本校の二つの提案が採択されたと紹介致しました。現代G.Pは社会的要請の強い課題に対応したテーマにつき、特に優れた取組を選定し、財政的支援を行う事業です。本校は、単独で「地域活性化への貢献」、他高専と共同で「e-Learning Programの開発」のテーマで選定され、平成19年度までの継続事業として展開しております。また、平成18年度の「現代G.P」のテーマの一つに「持続可能な社会につながる環境教育の推進」が加わりました。本校では今回のPCB廃棄物の廃液の流出という事態を踏まえて、学校全体で環境教育に取り組む必要があると考えており、上記のテーマは大変時宜を得たテーマと考えておりました。テーマの趣旨・目的は「持続可能な社会」の構築に向け、複眼的な視野を持ちつつ行う、実社会との相互交流を踏まえた学生に対する環境教育の組織的な取組が選定対象となっており、本校独自で提案するよりは、他高専と共同で幅広く環境問題を取り上げて提案するのがテーマの趣旨に適合と考えました。この度、松江高専が主担当となり、広島商船高専、東京高専がこのテーマで共同申請するに当たり、苦小牧高専にも誘いがあり、共同申請校として参加する事にしました。松江高専、広島商船高専は

いずれもISO14001を取得している環境教育の先進校です。ISO14001とは環境マネジメントシステムの構築に関する仕様書として位置付けられ、工学教育におけるJABEE基準に相当するものです。本校がISO14001を取得することを指すか、否かは別としても、広く環境との共生を意識した教育を行うことは、本校の学生が社会に出たとき必須の知識となると考えております。今回提案するプログラムの採否に関わらず、本校としては環境教育先進校から多くを学びながら、学生の環境教育を行っていく予定です。保護者の皆様、学生、教職員のご理解とご支援をお願い致します。ちなみに、本校のJABEE基準対応の教育プログラム名は「環境・生産システム工学」です。また、最近ローハスIOHAS（Lifestyles of Health and Sustainability）という言葉、健康を重視し、持続可能な社会生活を心がける生活スタイルが、我が国でも一部に現れてきております。

「環境教育なら苦小牧高専」を目指します！



高専協力会だより

笠原会長逝去

苫小牧工業高等専門学校協力会・笠原晃会長が去る1月18日、肝不全のため入院先の札幌市内の病院で逝去されました。74歳。故笠原会長は、昭和6年釧路市に生まれ、道立札幌第二高等学校（現道立札幌西高等学校）を卒業、北海道財務局を経て、昭和37年苫小牧信用金庫に入庫。同常務理事、専務理事を経て、平成2年に理事長、平成13年から会長を務められました。当協力会では、平成16年2月から会長を務めておりました。ここに謹んで哀悼の意を表します。



研究費の助成及び図書贈呈

苫小牧工業高等専門学校へ研究助成金の寄附及び図書の贈呈を行いました。

本事業は、平成6年度から実施されているもので、当協力会の主要事業の一つとなっています。助成金は教職員の方々への専門的研究の一助として活用していただきたい趣旨で、また、図書は教員、学生が自由に閲覧できるように図書館の協力会文庫に収容されるものであり、本年度は36冊を寄贈しました。

協力会文庫としては、累計で339冊となりました。贈呈した図書は以下のとおり。



図書館

平成17年度 協力会文庫・寄贈受入図書リスト

書名	出版社	書名	出版社
新版 ロボット工学ハンドブック	コロナ社	地球温暖化防止の課題と展望	日本経済評論社
Apacheクックブック	オライリー・ジャパン	改訂6版 測量業者登録申請の手引き	大成出版社
C/C++セキュアプログラミングクックブック VOLUME 1	オライリー・ジャパン	改訂10版建設業法解説	大成出版社
C/C++セキュアプログラミングクックブック VOLUME 2	オライリー・ジャパン	バイオマスハンドブック	オーム社
C/C++セキュアプログラミングクックブック VOLUME 3	オライリー・ジャパン	化学用語辞典	丸善
CSSクックブック	オライリー・ジャパン	科学大博物館	朝倉書店
DNS & BIND クックブック	オライリー・ジャパン	応用数学ハンドブック	丸善
Eclipseクックブック	オライリー・ジャパン	人間工学の百科事典	丸善
JavaScript & DHTMLクックブック	オライリー・ジャパン	UML 仕様書	アスキー
JavaScript クックブック	オライリー・ジャパン	The Art of Computer Programming Volume 1 Fundamental Algorithms Third Edition 日本語版	アスキー
JavaによるExtreme Programmingクックブック	オライリー・ジャパン	The Art of Computer Programming Volume 2 Seminumerical Algorithms Third Edition 日本語版	アスキー
Linuxセキュリティクックブック	オライリー・ジャパン	土木人物事典	アテネ書房
MySQLクックブック VOLUME 1	オライリー・ジャパン	図説 土木用語辞典	実教出版
MySQLクックブック VOLUME 2	オライリー・ジャパン	エネルギー・環境キーワード辞典一分野別用語一覧付	コロナ社
バイオロジクス	エヌ・ティー・エス	世界の海洋土木技術	山海堂
ベルゲン生化学の物理的基礎	シュプリンガー・フィアラーク東京	昭和の時代	小学館
環境緑化の事典	朝倉書店	"土木遺産世紀を超えて生きる叡智の結晶ヨーロッパ編"	ダイヤモンド社
都市再生 持続可能性を求めて②海外都市に学ぶ	日本経済評論社	道路土工構造物の設計計算例新・土木構造物設計計算例	山海堂

行事予定

前期

6月15日(木)～21日(水)
前期中間試験
第3学年オリエンテーション
(各学科1日)

7月6日(木)

壮行会

7月7日(金)～9日(日)

道内高専体育大会

7月24日(月)～8月25日(金)

夏季休業

8月1日(火)～12日(土)

全国高専体育大会(近畿地区)

9月19日(火)～25日(月)

編入学試験

前期定期試験防災訓練

後期

10月2日(月)

後期授業開始

10月20日(金)～23日(月)

高専祭

11月17日(金)

保護者懇談会

11月30日(木)～12月6日(水)

後期中間試験

12月25日(月)～1月5日(金)

冬季休業

1月20日(土)

リーダー研修会

1月25日(木)

入学者選抜推薦面接

2月18日(日)

冬季体育大会

2月14日(水)～2月21日(水)

入学者選抜学力検査

2月27日(火)～3月5日(月)

第5学年後期定期試験

3月7日(水)

第1～第4学年後期定期試験

3月16日(金)

学生総会

3月20日(火)～30日(金)

卒業式・修了式

3月20日(火)～30日(金)

学年末休業

学生会活動は
みんなの力で…

学生会 活動



学生会長
齋藤 誠

皆さん、こんにちは。学生会長の情報工学科5年の齋藤誠です。高専には1年生という新しい仲間が加わり、新しい年度がスタートしました。そこで、今年度の学生会の活動や学生会役員について皆さんに少しでも理解を深めてもらえるように、この度簡単に説明させていただきます。

学生会の主な活動は4つあります。1つ目は各種行事の企画・運営です。これは学校祭、体育大会をはじめとする行事の活性化を図るというものです。2つ目は学生からの意見の取りまとめ、学校への要望提出です。昨年度と同様に今年度も校長先生との懇談会を開催し、学生の皆さん一人一人の意見を学校生活に反映させていこうというものです。3つ目は学生総会、評議会などの会議の運営です。そして4つ目は広報便り（ホームページ）をはじめとする広報活動です。特に今年度は昨年度まで停滞していた広報活動に力を入れていきたいと考えております。学校生活や各種行事のことなど積極的に伝えていけたらと思っています。

次に学生会役員について説明します。学生会執行部は現在、会長1名、副会長3名、書記長1名、書記次長2名、会計長1名、会計次長2名、広報長1名、広報次長2名、そして監査委員長、議長、副議長、応援団長、新聞局長、体育委員長、高専祭実行委員長で構成しています。どの役職の人も個性あふれたメンバーで、自分の仕事に責任を持って活動しています。学生の皆さん一人一人の理解や協力なしでは、行事の成功や有意義な学校生活の実現は出来ません。どうか皆さん、この学生会役員を暖かく見守って下さい。よろしくお願ひします。



定年退職職員挨拶

定年退職を迎えて

機械工学科 教授
田中 義勝



昭和40年4月、開校2年目の本校に赴任してから41年の歳月が過ぎ去りました。退職を目前にして振り返ってみると、やはり赴任間もない頃のことが一番先に蘇ってきます。

見渡す限り草原と湿地の中に、現在のほんの一部の校舎と学生寮がひっそりと建っていました。学生数も少なく、3学科、2学年計240名でした。

しかし高倍率の入試を突破してきた学生たちは明るく意欲があふれていました。粗末な仮の実習工場で、ほんの僅かな設備で機械工作業実習を指導したのが私の最初の授業でしたが、今でも最も印象に残っています。その後年々校舎などの建設工事が進み、実験実習設備が導入され、学生数も教職員数も増加し、全体が躍動的で活気に満ちていました。そのような環境で教員として出発できたことは本当に恵まれていたと思います。学校が整備拡充されるにつれて様々な校務を担当させていただきましたが、大過なくまた健康を損

なうこともなく過ごすことができ、したのは皆様方のご支援ご協力によるものと深く感謝申し上げます。

同時にまた、在学中のみならず卒業後も様々な触れ合いを通じて、楽しさ、元氣、刺激を与えてくれた卒業生諸君に感謝いたします。

苦小牧高専の更なる発展と皆様のご健勝を祈念して退職の挨拶とさせていただきます。

「進路指導を振りかえって」

物質工学科 教授
笹村 泰昭



高専での仕事での思い出は何といつても進路指導での学生とのやり取りである。工業化学科13期生、28期生と2回の5年担任を振りかえって当時の進路指導は間違っていたのではないかと疑問に思うことがある。親があつて子が生まれ孫へと続くのだから年老いた者の世話、介護を要する人にどのような手を差し伸べるかは誰もが遭遇する問題である。学生が高専を卒業し親元を離れる頃はまだまだ親は元氣である。しかしその親も別れて暮らしているうちに老いてゆく。その間双方の生活習慣

や価値観に大きな差を生じてくる。現在のサラリーマン社会では離れて暮らす親の介護には限界がある。いったい誰が生活状態を察知し相談にのり援助の手を差し伸べ得たのだろうか。手を差し伸べるに至るまでのきっかけ初動は誰がするのだろうか。地域の民生委員が既にその役割を担っているのかも知れない。

学生自身が仕事に生きがいを持ち、少しは社会に貢献できる仕事を全力で仲介をしたつもりではある。しかし老後の親のことまでは…。笹村個人の価値観、生き方を強制していたのではないだろうか。退職にあたり反省しきりである。

「退職にあたって、若き諸君へ」

機械工学科・助教
関根 郁平



若き24才から本日に至るまで、大過なく、しかし途中2度ほど手術入院の洗礼を受けたが、無事定年を迎えることが出来た。さて、小生は北見短大の初期の卒業生であるが、卒業後短期間企業にいた。このとき凶外実験でバーナー器具作成に関わった。霧の発生時に大気を暖めて霧を消散させるものである。沼ノ端の旧陸軍の滑走路で、バーナー点火の加熱と共に天空は抜け、真っ青な空が開いた。このとき思った「私は何を

しているのか、研究を意図するはずではなかったのか」と。以降の経過は履歴の通りである。研究の成果としては余り多くのことは出来なかつたが、それなりの結果を得ることが出来た。若き諸君に述べたいことは、小さな研究開発においても、只漫然と受け入れるだけでは、真の成果が得られないと言ふことである。若い誰でもが言うように、有名になりたいとかである。これらのことは表面に過ぎない。何らかの実績を有する人はこの裏で並に倍する努力を継続していることを知らなければならぬ。これらの努力は人によって余り外には出さない場合が多いが、決して表面で捕らえられるものではない。もし、本心満足のゆく人生を送りたければ、普段の努力は惜しむべきではない。

感慨

学生課技術室・技術専門職員
柳谷 豊



還暦と定年による退職の年を迎えて感慨深いものがあります。私は戦後まもない昭和21年に室蘭市で生まれ、22歳の時、転勤により苦小牧高専に勤務することになりました。昭和39年（1964）創立の苦小牧高専は私が高卒後就職した年と同じです。日本の高度経済成長や1964年の東京オリンピック、1972年の札

幌オリンピックも歴史的なことになってしまいました。土木工学科、環境都市工学科の技術職員として実験、実習などを通して学生さんと触れ合ってきたことは本当に幸せなことでした。十代後半の多感な時期を5年間40名の仲間と過ごす経験は人生の宝になるように思います。また、中学卒業後にすぐに専門的な教育を受ける高専のシステムは正に戦後の日本の復興を支えた技術を継承するものとして評価されるべきだと思います。私は苦小牧高専校歌が大好きです。「こころざし 高く持して、勇氣もて おのれの善を つくしなれん」、

「あすの日の 国をにない 人の世の まことの幸を ぎすぎなん」高邁な理想を掲げた歌詞は、今の世に必要なことを示してくれるように思えるのです。

教育機関に身をおいてきたことは私自身の成長にとって大きな財産になりました。教職員の皆さん、若い学生さんと交わることは他の職場ではなかなかできないことだと感じます。これからの生活の一部にも学ぶことを加えていくつもりです。有難うございました。



学生課窓口のお知らせ

学生課には、保護者の方や学生からの電話でのご連絡、お問い合わせが多くなっています。なかには、せっかくお電話でお話しただいても「担当係に変わります。」などと電話を回されて不愉快な思いをされた方もいらっしゃるかと思います。

本校の学生課窓口は、担当の仕事によっていくつかの部署に分かれています。学生生活に直接関係のある窓口の主な内容は、次のようになっていますので、お問い合わせやご連絡は、各係の直通電話をご利用ください。

教務係	学生係	寮務係	学生寮教員当直室
0144-67-8001	0144-67-8032	0144-67-8002	0144-67-8024 (夜間緊急用) (17:15~8:30)

■教務係

- 授業、試験
- 休学、復学、退学及び卒業
- 在学証明書、成績証明書などの各種証明書の申請
- 学生証の申請
- 高専への入学試験
- 卒業証明書の申請
- 担任へ連絡がつかなかった場合の欠席の連絡

■学生係

- 奨学資金（日本学生支援機構など）の申請
- 入学料・授業料の免除の申請
- 健康管理（カウンセリングの申し込み）
- 課外活動・団体行動・諸行事
- 学割証の申請
- 就職のあっせん
- 大学への編入学試験

■寮務係

- 入寮・退寮の手続き
- 寮の諸経費
- 緊急の場合の外泊の連絡

〈ご注意〉

※緊急を要する連絡以外の学生の呼び出し、伝言などの取り次ぎなどは行いませんので、ご承知おきください。



平成18年度学級担任電話番号一覧表

市外局番0144-67-の後には下表の番号を付けてください。

学 科	機械工学科		電気電子工学科		情報工学科		物質工学科		環境都市工学科	
	氏 名	番 号	氏 名	番 号	氏 名	番 号	氏 名	番 号	氏 名	番 号
1 年	小鹿 正夫	8053	吉岡 亮	8915	中島 広基	8910	藤島 勝弘	8956	岡本 幸雄	8919
2 年	上木 政美	8911	多田 光宏	8913	堀 登代彦	8953	東 俊文	8955	石 信一	8918
3 年	池田 慎一	8015	舟越 久敏	8076	大西 孝臣	8930	岩波 俊介	8942	中村 努	8058
4 年	見藤 步	8012	山田 昭弥	8069	櫻田 智実	8934	古崎 毅	8043	下夕村光弘	8055
5 年	加島 正	8013	藤木 茂夫	8071	中村 庸郎	8929	奥田 弥生	8039	澤田 知之	8063

人事異動

○教育職員

平成18年3月31日（苫小牧工業高等専門学校校長発令）

〔定年退職〕

機械工学科・教授 田中義勝
機械工学科・助教授 関根 郁平
物質工学科・教授 笹村 泰昭

〔辞職〕

文系総合学科・教授 小山 直子
文系総合学科・助教授 山西 敏博

〔転出〕

機械工学科・助教授（二関工業高等専門学校機械工学科・助教授）小原 伸哉

〔昇任〕

平成18年4月1日（苫小牧工業高等専門学校校長）
機械工学科・助教授（機械工学科・助手）池田 慎一
物質工学科・教授（物質工学科・助教授）平野 博人
文系総合学科・助教授（文系総合学科・講師）小野 真嗣

〔転入〕

文系総合学科・助教授（文系総合学科・講師）吉岡 亮

〔採用〕

機械工学科・教授（採用）淺野 政之
機械工学科・助手（採用）丹野 格
物質工学科・助教授（採用）樺村 奈生
文系総合学科・助教授（採用）石川 希美

〔転入〕

情報工学科・助教授（釧路工業高等専門学校情報工学科・助教授）林 裕樹

○事務職員

平成18年3月31日（苫小牧工業高等専門学校校長）
〔定年退職〕
〔学生課技術室・技術専門職員〕柳 豊

〔辞職〕

庶務課人事係長（北海道教育大学事務局釧路校室）秋山 隆也
学生課学生係長（北海道教育大学事務局函館校室）吉田 繁延

〔昇任〕

平成18年4月1日（苫小牧工業高等専門学校校長）
学生課学生係長（学生課学生係主任）本田 貴一郎

〔採用〕

庶務課人事係長（出向）（北海道教育大学事務局旭川校室主任）志村 隆行
学生課教務係一般職員（採用）築田 星子

〔併任〕

会計課出納係長（会計課総務係長）松橋 和哉

〔所属の指注〕

平成18年4月1日（苫小牧工業高等専門学校事務部長）
学生課学生係 一般職員（学生課教務係一般職員）木村 郁美

○採擧職員

平成18年4月1日（苫小牧工業高等専門学校校長）
〔命〕
技術室主任（学生課技術室技術専門職員）遠藤 俊二
第四班班長（学生課技術室技術専門職員）照井 文哉
第四班班長（学生課技術室技術専門職員）遠藤 俊二

平成17年度 就職と進学 の状況について

進路指導委員会委員長 平野 博人



進路指導委員会
委員長
平野 博人

平成17年度は、ようやく景気回復の兆しが見られ、また2007年の団塊世代の大量退職を控え、本校への求人会社数も大きく増加しました。本科卒業生への求人会社数は一千社（昨年999社、一昨年732社）を超えました。就職は順調であり、就職率は例年通りほぼ100%を達成しました。本科卒業生の進学者は69名（卒業生全体の約41%）でここ数年とほぼ同様の傾向でした。

専攻科の就職・進学も好調に展開し、就職希望者は全員が社会人として巣立ちました。また、大学院への進学は3名で、今後、技術者・研究者を目指してさらなる研鑽を積むことが期待されます。

今後も本校の教育理念を踏まえ、学生に早期からの自己の確立を促し、オリエンテーションなどを通して低学年からの就職支援・進学指導を系統的に行なっていきたいと考えております。

平成17年度専攻科修了者進路状況

専攻	電気・生産システム工学	環境システム工学	合計
求人会社数	207	65	272
卒業生数	男	6	16
	女	5	5
進学者数	男	0	3
	女	0	0
就職者数	企業等	男	12
		女	4
	公務員	男	1
		女	0
進学先大学院	北海道大、東京大、奈良先端科学技術大学院大		
就職先	北都システム、エージービー、ソリューションプラザ、トヨタテクニカルディベロップメント、キャノンファイナテック、ソニー宮城、北海道日立情報システムズ	国際企業、栗田工業、苫小牧市役所、田中組、會澤高圧コンクリート、クローバー電子工業、東京水道サービス、ティアンドワイ設計事務所、和光純薬工業、ライト工業	

平成17年度本科卒業生進路状況

学科	機械工学科	電気電子工学科	情報工学科	物質工学科	環境都市工学科	合計
求人会社数	377	387	256	170	129	1,319
卒業生数	男	34	20	27	26	146
	女	1	0	9	7	23
進学者数	男	11	16	7	18	67
	女	0	0	1	0	2
就職者数	企業等	男	75			
		女	19			
	公務員	男	1			
		女	0			
進学先	北見工業大、室蘭工業大、長岡技科大、岐阜大、豊橋技科大、苫小牧高専専攻科、旭川高専専攻科	北海道大、筑波大、埼玉大、千葉大、新潟大、長岡技科大、豊橋技科大、三重大、苫小牧高専専攻科	北海道大、北海道教育大、室蘭工業大、東京工業大、新潟大、長岡技科大、静岡大、豊橋技科大、苫小牧高専専攻科	北海道大、東北大、信州大、苫小牧高専専攻科	北海道大、室蘭工業大、北見工業大、千葉大、長岡技科大、苫小牧高専専攻科	
就職先	日立化成工業、三菱電機ビルテクノサービス、出光興産、ダイキン工業、デザインネットワーク、森精機製作所、津田工業、三菱化学、日立ホームアンドソリューション、いすゞエンジニアリング、ダイナックス、トヨタ自動車北海道、日本除雪機製作所、TMCシステム、三菱製鋼、スズキ、松本鉄工所、新日本石油化学、総合警備保障、旭化成、王子製紙、スガノ農機、帯広松下電工	東海旅客鉄道、花王、ソニー宮城、富士電機システムズ、パピルス、エスイーシー、中部電力、コムテック2000、北海道電力、西日本旅客鉄道、ホクレンくみあい飼料、NHKテクニカルサービス、日立計測サービス、日本原燃、エヌ・ティ・ティファシリティーズ、JAL航空機整備東京、日産自動車、日本貨物鉄道、日立エンジニアリングサービス、矢崎総業、三菱ビルテクノサービス、日立ビルシステムズ	日本ソフトウェア技研、北都システム、TDCソフトウェアエンジニアリング、出光興産、フォレックス、VSN、シーテック、日本デジタル研究所、テクノラボ	旭化成、中外テクノビジネス、日立化成工業、カネカ北海道、東レ、T&K TOKA、新日本石油、出光興産、矢崎総業、森永乳業、サントリー、住友化学、日本ミルクコミュニティ、北炭ゼネラルサービス、雪印乳業、花王、ソニー宮城、日本触媒、日本ゼオン	東京水道サービス、日特建設、独立行政法人水資源機構、水谷建設、池田暖房、札幌市役所、明和産業、トヨタ自動車北海道、日本貨物鉄道、大阪ガス	

卒業生・修了生から贈る言葉

貴重な5年間

情報工学科卒業生 神成 政彰

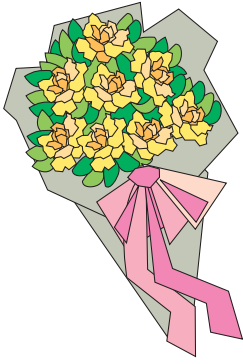


5年間という長いようであつた高専生活を振り返り、たくさんの思い出が思い出

した。入学当初は高専の勉強についていくのが大変で苦労したことを覚えていきます。5年生になり、高専生活の締めくくりといえる卒業研究を行い、その難しさを体験しました。高専での実験は、先生方の創意工夫により学生にわかりやすいような指導をしていただきましたが、研究は自分自身で問題解決を行わなければならず、研究の大変さを痛感しました。私にとって貴重な5年間となり、良い思い出となりました。

最後になりましたが、5年間いろいろな面でお世話になった先生方へ心より感謝致します。

また、5年間共に過ごしたかけがえのない仲間達に感謝しています。本当にありがとうございました。



卒業にあたって

環境都市工学科卒業生 藤田 亮



期待と不安と緊張が入り混じった学校生活、そして親元を離れ見

人と共同生活をしなければならぬ寮生活が始まってからすでに5年という月日が経ちました。

私は当時まだ公立高校にはなかった週休2日制や就職率100%、寮生活にそこがこれの学校に入りました。最初こそ勉強が面白くなくて公立高校にあこがれていました。が、辛い勉強やテストをこなしているうちにこれを将来仕事に就いた時の「糧」だと思えるようになり、寮生活に慣れ友達が増えていくたびに寮を「家」だと思えるようになりました。

このように思えるようになったのは、クラスの仲間や汗を流し笑い合っている時に涙した部活、学校行事を自分たちの手で創ることの喜びを知った学生会、夜遅くまで語り合った寮生活のおかげだと思っています。

5年間を振り返ってみると、楽しいことばかりではないけれど、本当にこの学校に入学してよかったと思っています。

最後に、親身になってご指導いただいた先生方や事務の方、いつも温かく見守ってくれた父と母、高専で出会った素晴らしい先輩後輩や仲間へ心から感謝しています。本当に有難うございました。

卒業にあたり

電気電子工学科卒業生 和田 健太



時の経つのは本当に早いもので、高専生活もいよいよ終わりのときになりました。入

学した時は5年生を見て大人だと感じたものですが、今では自分が5年生となり、当時の5年生にどれだけ近づいたかできてきたのだろうかと思えます。

高専生活は決して楽しい事ばかりであったとは言えませんでした。「叱咤激励」の後半二文字が消えかけた指導を受けて書き上げた何十通ものレポートに始まり、不可の二文字に怯えて睡眠と闘いながら受けた計二十回の試験、命の危険すら感じた受験勉強、度胸とハタタリで臨んだ卒業研究発表、他にも多々苦しいことがありました。しかしそれでも無事笑顔で卒業することができたのは、かけがえのない数多くの友人、先輩・後輩、そして諸先生方のお陰であり、ただただ感謝するばかりです。

卒業してからも進学先・就職先で辛い事は多くあるでしょうが、高専生活で得た貴重な経験を糧に、より一層の努力を重ね、社会のためになる技術者になることができたいと思います。

最後になりましたが、苦楽を共にした友人、お世話になりました先生方、そして私の高専生活を支えてくださった多くの方々に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

高専での5年間

物質工学科卒業生 塚田 知美



5年間とはこんなにも早いものなのでしょうか。あつという間のような気がし

ます。卒業をむかえたクラスメートそれぞれが、数え切れない思い出を胸にしていることでしょう。

特に高専生活最後の1年はとても印象に残っています。

卒業研究が始まった頃は実験がうまく出来るのか？論文はまとめられるのか？発表なんてできない！って思ったよね。就職試験もあんなに緊張したの初めてだったし、編入試験もすごく不安だった。体育大会のフットサルで優勝したときはみんな嬉しくてたくさん笑いあつた。長期休業に入ったら部活も卒研もあるから、たくさん学校に通つたのを覚えている。学校祭で売った焼き鳥、柔らかくて美味しかったね。そのあとは論文審査会が待ち構えていたけど、なんとかみんな乗り越えられた。合間のテスト（再試と追試の山？）も必死に乗り越えてはれて卒業。春休みの卒業旅行は盛り上がりすぎて疲れちゃったかな。

S5のみんな卒業おめでとう。高専で最高の友達に出逢うことができました。会う機会も少なくなつてしまふけど新しい職場・学校で一生懸命がんばってください。遠い所から応援しています。お世話になった先生方、手がかかる学生ですみませんでした。

最後にクラスTシャツと卒業アルバム、卒業ムービーは宝物にしようね。

卒業

機械工学科卒業生 白石 力仙



高専に入学生した日、ほとんど男しかいないこの空間に最低でも5年は過ごさな

入学当初は知人など周りにはないし、慣れない寮生活と勉強、異色の教師に不安を抱きました。そして、初めて前期中間試験を受けたときは、こんなことをあと19回も受けなきゃいけないのかと大儀に感じました。

授業中や試験中にスズメバチが侵入してきたり、実験室の天井がアスベストではないのかとか、建物がいつ地震で倒壊するのとか、建物に対してもいろんな不安がありました。

しかし、この学び舎や着戻し、そして厳しい環境が私たちを強く逞しく成長させ、仲間との協調性や信頼性を培ってくれたと思います。それは、学年が上がるにつれ難度が増していった試験は、試験数日前には教室で勉強会を開いたり、体育大会等の行事も積極的に参加するように変化したからです。

クラスメイトや部活のみんな、寮の仲間といろんなことを乗り越え、喜怒哀楽を共に感じ、大切な思い出が出来て心から良かったと思います。本当にありがとうございました。バラバラになつてしまふと思いますが、またいつか会えることを信じて自分の道を進んでいきます。

最後に、これまで御指導くださった先生方、寮職員、そして色々心配かけた家族にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

今までありがとうございました。

卒業おめでとう 平成17年度卒業式・修了式 卒業生へ贈る言葉

校長 伊藤 精彦



本日ここに、ご来賓各位並びに保護者の皆様のご参列のもと、第38回国立苫小牧工業高等専門学校卒業証書授与式並びに第2回専攻科修了証書授与式を挙行するに当たり、めでたくこの日を迎えられる諸君、及び今日まで諸君を暖かく見守ってこられた保護者の皆様に、本校教職員及び在校生を代表して、心からお祝いを申し上げます。

さて、この度卒業される諸君は、機械工学科40名、電気電子工学科34名、情報工学科29名、物質工学科34名、それに環境都市工学科32名の計169名であります。今年度はこの中に、2名の留學生が含まれておりますが、故郷と異なる文化、風土、習慣の中で学業に精進し、見事初志を貫かれた努力を誉め讃えたいと思っております。

また、専攻科を修了される諸君は、電子・生産システム工学専攻10名、環境システム工学専攻11名の計21名であります。諸君は昨年3月に竣工した専攻科棟で学ぶ最初の専攻科生でもありました。

諸君が今、手にされている卒業証書・修了証書は、青春時代には必ず体験する、心の葛藤や悩みを克服し、自らの内的向上に努め、たゆむことなく築き上



げられた、諸君自らの努力の結晶であることに胸を張って誇っていただきたいと思っております。

諸君が本校で過ごされた2000年代に入っの数年の間に、国外にあっては米国での同時多発テロ、アフガン戦争、イラク戦争、更にスマトラ沖大地震によるインド洋大津波、国内においても、度重なる台風の中越地震、今年の豪雪等、また金融不安、経済不況等、国内外を問わず深刻な事柄が発生しておりました。また、本校においても、1月の終わりにPCB廃棄物の廃液の流出という事態になり、保護者の皆様、学生諸君にはご心配をお掛け致しました。しかしながら、この様な社会情勢や、学校の状況の中にあつて自分を見失わずにしっかりと前を見つめ、勉強に課外活動に努力された皆さんに心から敬意を表したいと思います。今回の本校における状況も、現在、事態の収拾に向けて、全力を挙げて取り組んでおります。また、本校では環境問題や危機管理について、今回の経験を教育に生かすように努めてゆく所存です。

さて、技術者が国と言う枠組みにとらわれず世界的規模で活躍の場を広げており、技術者教育の質について、社会が要求する水準に学校が応えているか、学生がその能力を本当に身につけたかを国際的レベルで評価するようになってきております。本校ではこれらの動きに対応すべく、日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に適合した教育システムを構築して参りましたが、準備が整い、昨年11月はじめにJABEEの実地審査を受けました。実地審査で、本科4、5年生および専攻科生に対して行っている教育プログラム「環境・生産システム工学」がJABEE基準をほぼ満足する内容であるとの感触を得ました。今年の6月には、JABEEより朗報がもたらされると考えております。今回専攻科を修了される諸君は、大学評価・学位授与機構の試験に合格しておりますので、全員に工学士の学位が授与されますが、今年の6月には技術士の第一次試験合格者と同等の資格つまり技術士補の資格が与えられることとなります。今回の実地審査では、本科生や専攻科生が審査チームのインタビューを受けました。その評価は非常に良いものでした。審査にご協力頂いた皆さんに感謝申し上げます。また、昨年の6月にJABEEのワシントン・アコード（WA）加盟が正式に承認されましたので、今回の専攻科修了生はWA加盟国である米国、英国、カナダ等8カ国の同一分野のプログラム修了生と同じ技術者教育を受



けた者として認められることとなります。したがって、今回専攻科を修了される諸君がWA加盟国の学生と同等な取り扱いを受ける我が国のみならず非英語圏最初の学生となります。



諸君は、JABEE基準に対応するために、本校が教育システムを開学以来最も大幅に変更した節目の時期に本校で教育を受けました。このような変革に耐えて頂いた諸君に教職員一同深甚なる敬意を表します。

さて、「最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。」と云われております。環境の変化に即応出来なければ、巨大既存企業も恐竜のように滅亡してゆく運命にあると思っております。諸君が果立って行く先には、変革の怒濤が待ち受けております。諸君が苫小牧高専で学んだ基礎知識、身につけた技術、さらには学校行事や課外活動等で体験したリーダーシップやパ

ートナーシップによる一層磨きかけ、生涯に渡り継続的に学習し、技術者としてまた社会人として成長されるとともに、変革の怒濤に時代を切り開いていかれることを切に望みます。

在校生から卒業生へ向けて

「在校生を代表して」



物質工学科 5年
伊藤 充範

まず、卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。就職や進学などで環境が変わっていると思いますが、お元気でしょいか。僕は、卒業生の皆さんから見ると一学年下の物質工学科の伊藤充範です。先輩たちは僕にとって接しやすく、付き合いが長い先輩となるため一番迷惑をかけたことでしょうか。

先輩たちとの思い出はさまざまなものがあり、特に昨年度については3棟1階の先輩たちとの寮生活で一生忘れられない思い出を作ることができました。また、高専祭ではザ・コンテストや女装コンテストなどさまざまな行事に積極的に参加して盛り上げてくれたこともありましたね。クラブ活動において、先輩たちは目標の一つであり、僕たちを引っ張って行ってくれました。僕も先輩たちのように思いつけばいいようになるようにがんばりたいです。

これから先輩たちには様々な困難が待っているかと思いますが、高専を卒業することに比較したら案外たいたことではないか、と思ってもらえたら幸いです。

「お世話になりました」



電気電子工学科 4年
久里 佳祐

卒業生のみなさんご卒業おめでとうございます。卒業生のみなさんにはいろいろなお世話になりました。体育祭や高専祭では積極的に参加し、中心となり大いに盛り上げてくれました。そのおかげで私たちも大変楽しむことができました。部活や同好会では時には厳しく、時にはやさしく私たちを指導し、引っ張って行ってくれました。他にも進路や勉強についても相談やアドバイスをしてもらいました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。そんなみなさんがいなくなり少し寂しい気もします。また頼りがいのあったみなさんがいなくなることには不安もあります。しかしこれからは私たちが5年生と協力してこの高専を引っ張って行こうと思います。みなさんのようにはできないかもしれませんが、私たちは私たちに頑張りたいと思います。そしていつかはみなさんのように立派な先輩になっていきたいと思います。社会に出て大変なこと多いだろうと思いますが、挫けず頑張ってください。

卒業生父母の言葉

息子の卒業に寄せて

機械工学科卒業生のお父さん
淵瀬 和寿さん

思い起こせば5年前、期待と不安の入り混じった表情で、親子共々入学式に出席したのが、つい昨日のことのようだ。

「まだまだ子供だ。」と思っはいるものの、大人っぽい顔つきになった卒業生達を見て、5年の歳月を感じたのは私だけであろうか。

自宅がJR千歳線・苗穂駅から徒歩10分程のため、希望していた入寮がかなわず、汽車通生となった。早朝5時起きの日々を続けて5年。卒業式では、20数名の仲間と共に皆勤賞をいただき、本人も良く頑張ったと思うが、それを支えた家内にも頭が下がる。

息子の卒業式に臨んで、20数年前の自分を「こんなだったのだろうか?」と自問した。実は、私も5年間、樽前山を仰ぎながら蒼冥寮で寝起きし、機械工学科12期生として講義・実習・実験・レポート作成・クラブ活動等々の日々を過ごした。高専での5年間は、社会人へのステップアップの重要な基礎となり、また、ここで「一生もの」とも云える貴重な知恵を得た。

これから息子には、厳しい試練や新たな出会い等、色々待ち受けていることだろうし、これまでの経験だけでは解決できない大きな壁にもぶつかるかも知れない。しかし、それに怯むことなく、また、5年間で得た友人達を大切にしながら、「二期一会」の気構えで取り組んでいてもらいたい。

最後に教職員の皆様方には、親子2代に亘り、何かとお世話になりっぱなしで、本紙面を借りて改めてお礼を申し上げます。

息子の成長

物質工学科卒業生のお父さん
古川 周三さん

「男子、3日会わずれば刮目す」との言葉通り、息子はこの5年間、帰省するたび、遅くなっていった。

無論、育ち盛り。バスケット部に所属したせいか、身長は見上げるほどに伸びたし、胸板だつて厚くなった。

でも、何より成長を感じたのは、息子が他人との距離感を測る術を自然と身に付けていったことだ。もともと、お調子者。幼い頃から人付き合いはいい方だが、根が臆病で無理しているところも多かった。

それが、先輩、後輩入り乱れる寮生活でもまれるうちに変身した。若さゆえのツッパリはあるが、その中でも多少、我を抑えることを習得した。また、単に群れるのではなく、慕う先輩に対しては、将来を相談するほど懐に飛び込み、対人関係で濃淡をつけることを身につけた。周りの人間や環境に対応できず、引きこもりやニートが増える中、親のひいき目とはいえず、「人間力」が成長したと評価したい。

しかし、まだまだ「青い」。

これから出て行く社会は結局、人間対人間。嫌な人間も出てくるし、いじめも待っているかも知れない。それでも高専の寮で身につけた人間力で、それらを乗り切っていくことを願っている。

編集後記

「進化する広報!」

企画広報委員長
中野 渉



「高専通信一・二号」いかがでしたか。昨年度の一・二号から徐々に見直しを進めて、この一・二号では表紙も思い切つてリニューアルし、本文は縦書きにしました。企画広報委員会では山崎専門職員の技術力を借りて「進化する広報!」に努めています。ニュー高専通信となった今号は、卒業式、入学式という大きな行事を中心にして構成しました。特集の「ニュージャーナル訪問記」「留学生紹介」はご覧いただけましたか。企画広報委員会では今後も学生の海外研修を実施して、本校留学生との交流の機会も設けて、学生の国際性を伸ばす機会を増やしていく予定です。また、「学生会活動」「学生寮紹介」などから苦高専学生の活発な活動を感じていただければ幸いです。ご協力いただいた皆様には御礼申し上げます。また、読者の皆様からのご意見、ご感想、ご寄稿をお待ちしています。

CONTENTS

- P01 新入生への言葉 校長伊藤精彦／新1年生を迎えて1学年担任からのメッセージ
- P02 先輩からのメッセージ
- P03 クラブ&同好会ご紹介 苫小牧高専硬式野球部・少林寺拳法部
- P04 学生寮紹介
- P05 研究室訪問
- P06 新任教職員挨拶
- P07 ニュージーランド訪問記
- P09 留学生紹介
- P10 福利厚生施設の紹介・環境教育への取組
- P11 高専協力会だより
- P12 学生会活動
- P13 定年退職職員挨拶
- P14 学生課窓口のお知らせ／人事異動
- P15 平成17年度就職と進学の状況について
- P16 卒業生・修了生から贈る言葉
- P17 平成17年度卒業式・修了式 校長伊藤精彦
- P18 在校生から卒業生へ向けて／卒業生父母の言葉／編集後記



平成17年度
旅立ち！卒業式
万感、胸に！
卒業生父母の言葉
長年ご苦勞様でした
定年退職教職員の言葉